

私を強くしてくれました
ニューヨーカーのハートが

河北麻友子

女優・タレント・モデル

ファッション誌の専属モデルでティーンのファッションアイコンとしてブレイク、タレントや女優としても大活躍する河北麻友子さん。その堂々とした立ち居振る舞いと完璧な英語は、ニューヨーク出身というバックグラウンドに支えられたものです。16歳で日本生活を始めたときには日本語の壁にぶつかりながらも“ニューヨーカー魂”で乗り越えたと話す河北さんに、海外での経験から得たことや、新しい世界に飛び込む際のアドバイスをうかがいました。

PROFILE 河北麻友子（かわきたまゆこ）

1991年11月28日生まれ。アメリカ合衆国ニューヨーク出身。11歳の2003年8月「第9回全日本国民的美少女コンテスト」グランプリ・マルチメディアW受賞。16歳のときに日本に移住して本格的に芸能活動を開始。以降、ファッション誌の専属モデル、テレビドラマやバラエティ番組、CM、映画、ラジオなどに多数出演。2020年、第92回アカデミー賞授賞式のレッドカーペットリポーターを務め、活動の範囲を拡大中。

世界サイズの感性を育んでくれた故郷・ニューヨーク

河北さんは、ニューヨーク・マンハッタンで生まれ、日本人のご家族と一緒に暮らしていました。バイリンガルの洗練された雰囲気から超のつく都会っ子を想像しますが、幼い頃の思い出は「兄とどろんこになって遊んでいたこと」と話し、のびのび育ったことがうかがえます。楽しい思い出ばかりで、2001年の同時多発テロ（9・11テロ）の記憶は、「悲しい出来事で大変でしたが、その後、皆で力を合わせ立ち直ろうとする前向きなムーブメントのほうが印象に残っています」。河北さんにニューヨークの印象を聞くと「いろんな文化をもった人たちが集まっているところ」という答えが返ってきました。

—— ニューヨークで生まれ育ったことを振り返ると、どう感じますか？

大人になってからとてもありがたいことだったと気づきました。いろんな国の方が住んでいて、お店に行けば世界のあちこちから来た違う人種の方が働いているのが当たり前。違和感なく多様な文化に触れ、インターナショナルな考え方ができるようになったことはすごく良かったなと思います。

学校にもいろんな国のお子さんがいたので、自然と世界に興味を持って、今世界では何が起こっているのかに关心を持つようになりました。勉強は好きではありませんでしたが（笑）、ニュースや新聞を目にしたり、友達と話したりするだけでさまざまな情報が入ってきて、世界について学んでいきました。

私のクラスに日本人は私1人でしたが、バングラデシュ人の子も1人で、みんな違うから逆にみんな仲間になれる

↓「せっかく本物に近い環境なのだから、吸収したほうがいい」主義で、本場のエンターテイメントに触れさせてくれたDaddyと、ニューヨークに住んでいた11歳の頃。お父さんは日本人ながら、電話を切るときに“*I Love you.*”とってくれるようなニューヨーカー流の方なのだそう。



↑ ニューヨーク時代、カフェでお姉さんと。学校では英語だったので英語が日本語より強い母国語に。家では「英語を1回話すと注意、3回でペナルティ」の英語禁止のルールがあったものの、お兄さん・お姉さんと話すと英語になりがちで「おしゃれベンパン☆でした（笑）」

というか。生まれた背景が異なれば当然文化が異なることを知り、違いを受け入れる感覚が身についたと思います。

—— 「海外では日本人は特に自己主張しないといけない」と言われますが、いかがでしたか。

いろんな人がいるから、主張しなくても興味を持ってもらいました。もちろん主張すればすぐになじめると思います。でも主張できないタイプなら、みんなのほうから「どこから来たの？」というふうに聞いてくれると思います。私も友だちが日本の話題で話しかけてくれました。

ニューヨーカーって冷たいイメージもあるみたいですが、荷物を持ってくれたり、意外に親切で温かいんですよ。特別に怖いところでもありません。私はカフェなどでバッグを後ろに置かずに自分の前に置くのが癖になっていて、危機管理は身についていると思いますが。最低限の警戒心をもって生活する海外生活の入門にちょうどいい場所ではないかな。

—— どんな志向を持った方の留学に合っていると思いますか？

四季もあって日本のように1年でいろいろなファッションが楽しめますし、ニューヨークコレクションも開催されるので、ファッション関係の方にはすごくおすすめです。

それから、ブロードウェイもあるので

エンターテイメント。私もよく家族で映画やミュージカル、オペラなどを観に行って、センスが磨かれたと思います。世界的に有名な方がコンサートをやっているカーネギーホールには「ファミリー席」があって、子どもも一緒に行けるんですよ。値段も安いですし。大物アーティストがフリーライブをやってたりもして、“本物”が身近にあることも大きな魅力だと思います。



多様性の理解で
身に着いた
困難に動じない強さ

ニューヨークというやはりスペシャルな環境を“当たり前”的なものとして、国際的な感性を備えた少女に成長していった河北さん。芸能の世界に入ったきっかけは、11歳のとき夏休みの思い出作りの感覚で受けた「全日本国民的美少女コンテスト」でした。日本への移住は「1ミリも想えていなくて」、その意向を伝えていたにもかかわらず、グランプリを受賞。当初の予定通り帰国しましたが、ニューヨークで歌やピアノ、日本舞踊、演技のレッスンを受け、少しずつ楽しさに目覚めていったそう。そして5年が経ち進路を考え始めたとき、日本で芸能の仕事に本腰を入れる決意を固めて来日し、高校にも入学しました。

—— 日本で文化の違いに苦労せず、すぐに学校や生活になじめましたか？

苦労は全然ありませんでした！日本に来たばかりの頃は日本語があまり話せなくて、片言のような感じだったので

ですが。「あの頃は全然しゃべらなかったよね」と言われます。相手の言っていることがわからてもとっさに言葉が出てこないので、YesかNoかの返事だけで、こちらから話しかけることはできなかったですね。

日本語を読むのはもっと難しかったので、授業やテストは大変でした。テストの問題の漢字が読めなくて、先生に「ルビをふってください」と頼んだら、「1人だけ特別扱いはできない」と言われてしまって、仕方ないと諦めて。追試をたくさん受けて、先生がギリギリ卒業させてくれた感じでしたけど。（笑）



でも、そんなの全然気にせず「日本語ができなくても当然でしょ」って開き直っちゃってました。ニューヨークで心が鍛えられていたんだと思います。「違う環境で育ってきたんだから、違うに決まってるじゃない!」って、心がニューヨークなので大丈夫でした。

同じような帰国子女のクラスメイトが1人いて、彼女とは思いきり英語で話せたことが気持ちを楽にしてくれました。もし誰もいなかつたら、ちょっとキツかったかなとは思います。

—— 日本語はどんなふうに話せるようになっていったのですか?

最初は話しかけられて答えるのに、日本語→英語、英語→日本語と、変換するステップをはさんでいた気がします。でも仕事をしていく中で考える時間が少なくなって、話せるようになります。…時々ボロがでちゃいますけど。

(笑) 基本的に友だちは日本語でしか話せないので、自然と努力していたと思います。

マネージャーさんからは「サザエさん」や「ドラえもん」などのアニメを見て勉強しなさいと言われました。子ども向けなのではつきりしゃべっているし、説明が多いのでわかりやすいんですね。そのレベルがその頃の私に合っていたんだと思います。それから、私は音楽が好きなので日本語の曲をたくさん聞いていましたね。歌詞の中には少し難しいニュアンスのある言葉が出てきたりするので、わからない言葉は意味を調べたりして少しづつ覚えていきました。

たくさんの人と話せると人生が豊かになる

モデルや女優、タレント活動など少しずつ活躍の幅を広げてきた河北さんにとって、生まれ育った環境と英語力は「お仕事をさせていただく上で唯一の私の強み」。アカデミー賞のレッドカーペットでのインタビューというチャンスが得られたのはその大きなひとつと語り、見事に大役を果しました。

「でも」と河北さんはキラキラした表情で続けます。「いちばん良かったと思うのは、英語を話せるといろんな国の何倍もの人とコミュニケーションできることです。それだけでとても楽しいし、人生が豊かになっています」。英語力などのスキルを超えた、人間を愛し生きることを楽しむ心が河北さんの輝きの源。話せる言葉が増えたらしいなと思っているそうです。

—— 留学するならどんな留学がしたいですか?

イタリア料理が大好きなのでイタリアに行って、イタリア語を勉強したいです。あとは世界でいちばん母国語にしている人が多い中国語! そんなにたくさんの人と話せたら人生が変わりそうだから、中国に語学留学したいです。

—— 英語に苦戦している人に、アドバイスをお願いします。

ひらがなとカタカナと漢字まであって複雑な日本語に比べると、英語は本当に楽ですよ! アルファベットしかないですし、敬語もありませんから。

話せるようになるには、

しゃべることがいちばんだと思います。番組で共演させていただいているタレントの出川哲郎さんから学んだことです。英語圏の国で周りの人に質問しながらミッションをクリアするのですが、出川さんは英語を話せないので、答えを導き出しちゃうんですよ! その秘けつは、恥ずかしがったりせずとにかく話しかけること。日本語と英語を混ぜちゃって文法がぐちゃぐちゃでも、キーになる言葉があればなんとか伝わるんです。まずはしゃべってみることで、英語はどんどん上達していくと思います。…出川さんはなぜか毎回ふりだしに戻ってしまうんですが…(笑)。

移民が多いニューヨークでは、英語が上手でない人がたくさんいるので、全然恥ずかしくありません。周りの人も何を言おうとしているのか聞く努力をしてくれるでの、ためらわずにしゃべれる環境だと思います。

みなさんも留学できるチャンスがあるならぜひ行ってほしいです! 他の文化に触れると世界が広がりますし、現地でしか味わえない、人生が変わる経験ができると思います。



留学よくあるギモン・質問 Q&A

留学を考えるみなさんからよく聞かれる疑問や小さな心配事を河北さんにぶつけて、答えていただきました。ポジティブな言葉に不安は吹き飛びそうです☆

Q. アメリカと日本の違いでびっくりしたことは?

A.人の多さ!ベタですが、渋谷のスクランブル交差点は本当に驚きましたね。ニューヨークは東京ほど人が密集していないので。それから、日本ってゴミが落ちていなくてすごくキレイで清潔です! ニューヨークに戻ったら「汚い!」って思いました。(笑) でもそれが味だと思って許してください♥

Q. アメリカの学校ってどんな感じ?

A.日本にない文化で特別なのは、高校の「プロム」。卒業前のダンスパーティーです。私は卒業せずに転校して日本に来たのですが、1年早く先輩に誘われて経験できたんです(残念ながら彼氏ではなかったですが)。真っ赤なドレスを着て行きました。ごはんを食べたり踊ったり、みんなでおしゃべりしたり、楽しかったですね。

Q. 周りの人となじめるか不安なのですが…?

A.今は日本の文化が世界でブームです。アニメとか、ラーメンなどの食文化もヒットしているので、そういう話題で話しかけられたりするんじゃないかなと思います。そのきっかけをうまくつかんでください!



Q. 英語のオススメ勉強法は?

A.動画配信サービスを利用して、好きなジャンルの動画を英語で見るのがおすすめです。字幕も変えられたりするので、勉強する中で英語字幕にしてみるのもいいし。興味があることをきっかけに学ぶのが早いと思います。

Q. ホームシックはどうやって克服したらいい?

A.私も姉と離れるのがさみしくて飛行機が離陸して10時間くらい泣いていましたけれど(笑)、インターネット電話で話して乗り越えました。今の時代はテクノロジーがあるので大丈夫☆でも食の部分で、疲れたときにお味噌汁でホッとして心が温まるみたいなことはあると思うので、現地では買えない日本の味は持っていくかも!